

環境改善剤「クリアウォーター」

【宇部】無機材料メーカーの宇部マテリアルズ（山口県宇部市、西田宏社長）は、総合化学メーカーの宇部興産の子会社として同県美祿市で取れる石灰石を原料として、生石灰や消石灰などカルシア関連製品を製造している。その生石灰を使って海水からマグネシウム成分を抽出し、水酸化マグネシウムなどの関連製品を展開する。養殖場の底質改善に役立つ宇部マテリアルズ製品「クリアウォーター」の特長などを、開発当時から携わってきたマグネシア関連事業部の渡辺国男部長に聞いた。

「商品が誕生したきっかけや経緯などは。1980年代以前に三重県から真珠など沿岸養殖の底質改善が検討されていた。当時、同県志摩市の三重県浜島水産試験場では石灰を活用した底質改善効果を実証されており、当社の水酸化マグネシウム製造プロセスと類似していた。海水から水酸化マグネシウムを作る技術は戦前からあり、当社では年間40万トンの生産能力を持っている。環境改善の問題は三重県だけではなくと考え、93年に正式に商品化した。

「商品が誕生したきっかけや経緯などは。1980年代以前に三重県から真珠など沿岸養殖の底質改善が検討されていた。当時、同県志摩市の三重県浜島水産試験場では石灰を活用した底質改善効果を実証されており、当社の水酸化マグネシウム製造プロセスと類似していた。海水から水酸化マグネシウムを作る技術は戦前からあり、当社では年間40万トンの生産能力を持っている。環境改善の問題は三重県だけではなくと考え、93年に正式に商品化した。」



マグネシア関連事業部の渡辺国男部長

あるクリアウォーターは、底泥中の水素イオン指数（pH）8.2の濃度

養殖場の底質改善に貢献

海水由来のマグネシウムで硫化水素を抑制

魚が餌をよく食べるようになったと喜ばれた。一どのようなところに利用が多いか。マダイ、ブリなど沿岸養殖やエビ、アカガイなど発売当初は年間500〜600トンを販売した。最近では海面養殖の技術向上、餌改良、過密養殖の抑制などにより養殖環境が変わり需要も減ったが、山口県内海栽培漁業センター（山口市）でも継続して使用中。5年ほど前からは、台湾でバナメイやボラの養殖場で散布が始まった。

今後は、陸上養殖での採用を期待している。閉鎖循環式では、飼育水の管理が重要。海水由来のマグネシウム成分で浄化するクリアウォーターの持続可能性を見いだしたい。河川やダムなどを対象にしたアオコ対策にも機能を発揮する。さらに硫化水素発生抑制として、汚水貯留槽（ヒルピット）や浄化槽へ投入すれば、悪臭改善や設備腐食を抑制できる。使用法、環境負担について。



クリアウォーター（容量20kg）

宇部マテリアルズは同商品をj使った閉鎖性海域における水環境改善技術分野を2014〜15年度に行なった。結果は15年度jの環境省の報告書にまとめられている。

商品の散布は養殖を始める春から夏にかけてがベストタイミングだといjう。今期から包装も刷新し、さらなる販路を模索している。

商品に関する問合先は次の通り。▼宇部マテリアルズ（株）マグネシア関連事業部 電話08336・31・6008

を維持する働きを担う。クリアウォーターを3年間散布し、底質調査をした養殖事業者からは、「目には見えないがこれだけ気を付ければ」と実感された。何よりも